

すみだ環境共創区民会議
令和3年度・令和4年度
活動報告書



墨田区環境キャラクター 「地球くん」

令和5年3月

すみだ環境共創区民会議

目 次

1	すみだ環境共創区民会議	1
2	これまでの活動内容	2
3	今期の活動の詳細	7
	(1) がすてなーに ガスの科学館見学	7
	フィールドワークまとめ資料	8
	(2) 環境フェア	11
4	活動のまとめ	15
	すみだ環境共創区民会議委員名簿	巻末

1 すみだ環境共創区民会議

すみだ環境共創区民会議は、平成7年度に策定された墨田区環境誘導指針に基づき、区が行う施策等について区民及び事業者の意見・要望を反映させるために、「すみだ環境区民会議」として設置されて以来、2年間で1期として活動している。その後、平成18年度に施行されたすみだ環境基本条例により、区における環境の共創（※）に関する施策を総合的に推進するための会議として位置づけられ、名称を「すみだ環境共創区民会議」と改めた。

なお、すみだ環境基本条例では、すみだ環境共創区民会議は次に掲げる事項を行うこととしている。（すみだ環境基本条例第20条第2項）

- 環境基本計画（すみだ環境の共創プラン）のうち、区民及び事業者の活動と区の施策との整合性に関し協議すること。
- 環境の共創に関する実践活動を行うこと。
- 環境の共創の推進について、必要に応じ区長に意見を述べること。
- そのほか、環境の共創の推進に当たっての重要な事項に関し、協議すること。

※ 環境の共創とは「良好で安全かつ快適な環境の維持、回復及び創造並びに環境との共生をいう。」（すみだ環境基本条例より）

2 これまでの活動内容

平成18年度

すみだ環境共創区民会議の発足にあたり、区民会議の運営方法や開催頻度、活動テーマ等について議論するとともに、環境基本条例の普及・啓発や環境基本計画の策定に向けて、グループに分かれての検討をおこなった。また、花王墨田工場や区内の公園への見学会を実施した。

平成19年度

雨水やエネルギー、公園やごみ問題など、多様な環境問題に関するテーマに対して各委員が講師となり、それぞれの活動分野についての勉強会を中心に活動を行った。

平成20年度

省エネ生活をテーマに、各委員の家庭の光熱水費の調査を中心に活動をおこなった。また、墨田区環境審議会の委員でもあった須田孫七氏を講師にお招きして墨田区の生き物についての講演会を実施したほか、東武タワースカイツリー株式会社の担当者を講師として、スカイツリーの環境影響評価について勉強会を行った。

平成21年度

すみだ環境区宣言の実施について議論した。また、緑と生物の現況調査、緑の基本計画、緑と環境に関する講演会の聴講など、緑、生物について主に活動を行った。

平成 2 2 年度

前年度に引き続き緑を活動テーマとして、区内の道路公園の緑や東京都の緑の計画について講演を聴講するなどし、6月には尾瀬で宿泊研修を実施し、委員間の親睦を深めるとともに、尾瀬の緑を守るための取り組みを学び、東京の今ある緑を守るために何ができるかを考察した。

平成 2 3 年度

環境の共創プランの改定に向けた意見集約をした。また、翌年の環境フェアから区民会議のブースを出すことを決定し、後期は出展に向けた事前準備をおこなった。

平成 2 4 年度

すみだまつりで区民会議のブースを出し、区民会議の活動とプランの基本目標 1～5 の紹介をおこなった。また、後期には緑化や環境区宣言の周知方法について、グループに分かれて討議を実施した。

平成 2 5 年度

現行のプランで掲げている基本目標 1～5 について理解を深めるために、一年間かけて勉強会を実施した。

平成 2 6 年度

前年度の活動内容を基に水、緑、ごみの 3 つをテーマとしてグループに分かれて勉強、議論をし、それぞれのテーマについて提言をまとめた。

平成27年度

平成28年4月から始まる今後10年間の環境基本計画である「第二次すみだ環境の共創プラン」の内容について、主に意見交換を中心に活動した。

平成28年度

過去の活動の反省から、毎回違う議題に移るのではなく、場所やテーマを絞り、一年間同じテーマで実践活動を行うという方法を取った。本年度は荒川にテーマを絞り、施設見学会や勉強会、現地調査を通じて荒川の環境についての知識を習得し、環境フェア、すみだまつりにおいては荒川の区民の意識調査を行い、我々が考える荒川の環境と区民の意識はどのように違っているかについて考察した。

平成29年度

区内の緑や生物に焦点を絞って活動をおこない、環境フェアやすみだまつりでは環境マップの作成やアンケートによる意識調査を実施した。1月には東京パワーテクノロジー株式会社（旧尾瀬林業）の担当者のご講演を受講した。2月には区内の緑化関連施設の見学を実施し、香取神社の紅梅園や旧中川河川敷、緑と花の学習園を訪問した。また、3月には区の緑化推進担当職員による講義を受講し、区の緑化、生物に関する施策への知見を深めた。

平成30年度

6月の環境フェアで区民はどの環境問題に興味関心があるのかをアンケート調査し、その結果、最も区民の興味関心が高かったごみ・リサイクルの問題についてすみだまつりで掘り下げたアンケートを行った。それ以外は前年に引き続いて緑・生物に関する活動を実施した。8月には都心の緑を見に行くということで、文京区の小石川植物園と小石川後楽園の緑を見学した。12月には今年実施した緑と生物の現況調査の報告を区の職員から受けた。

平成31年度（令和元年度）

前年度に引き続き緑・生物についての議論を行い、第二次墨田区緑の基本計画の策定が控えていることから同計画担当職員も交えて緑についての意見交換を行った。また、区内の緑の実態を探るためフィールドワークを行い議論した。

環境フェアでは区民会議の活動をPRするため、区民会議の役割についてパネルを作成し、訪れた方に説明を行った。

令和2年度

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部開催自粛をしたほか、感染対策を徹底した上で会議を行った。会議では、前年度に行った緑化の現況に関するフィールドワークを踏まえ、区内の緑化に関する発見、課題や要望等を共有し、今後の緑化の進め方に関する意見交換を行った。

区民目線での活動として実際に区内の現況を見て直接感じたことが、令和3年度に策定予定の第二次墨田区緑の基本計画において、区の現状を踏まえ、環境の共創に向けた計画として反映されるよう、区に対し意見を表明した。

令和3年度

令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一部会議を中止や書面開催にしたが、感染対策を徹底した上で対面形式での会議を行った。また、年度途中からはオンライン併用により会議を行った。会議では、「第二次すみだ環境の共創プラン（すみだ環境基本計画）」の中間改定及び「第二次墨田区緑の基本計画」の策定に当たり、区の現状や課題に対する委員からの意見を施策へ反映させるべく意見交換を行った。

令和4年度

令和4年度は、テーマを「気候変動」に定め、気候変動や地球温暖化防止、カーボンニュートラルに対し、区民一人ひとりができる行動やそれをPRする方法について検討を行った。また、区として「すみだゼロカーボンシティ2050宣言」表明1周年に合わせてゼロカーボンシティ実現に向けたロードマップを作成するのに合わせ、気候変動対策の両輪である緩和策、適応策のそれぞれに対する具体策について検討し、施策に反映するべく議論を重ねた。11月には、気候変動と資源の観点から、研修会として「がすてなーに ガスの科学館」の見学を行った。

この他、10月には、佐原委員から墨田区の雨水利用における現状や課題について、1月には東京電力パワーグリッド(株)の石川委員から今冬の電力需給の見通しについての講義がそれぞれあった。

3 今期の活動の詳細

(1) フィールドワーク・研修会

ア 令和3年度

新型コロナウイルス感染症感染状況から、令和3年度においてはフィールドワーク等の開催を中止した。

イ 令和4年度

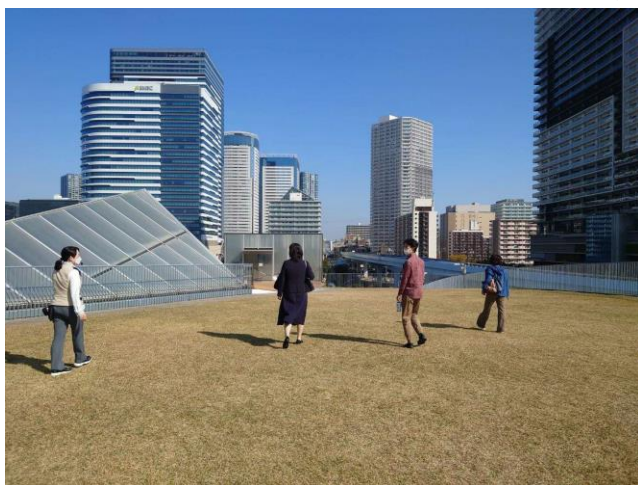
気候変動への議論に関連して、研修会として上記施設の見学を行った。

(ア) 日時

令和4年11月12日(土)

(イ) 場所

がすてなーに ガスの科学館 (江東区豊洲6-1-1)



すみだ環境共創区民会議フィールドワーク
(がすてなーに ガスの科学館見学会)

2022. 11. 12

すみだ環境共創区民会議

すみだ環境共創区民会議は、令和4年度の議論のテーマを気候変動に定め、気候変動に対する緩和策と適応策についての知識を深めつつ、区民としてどういった行動をしていくべきか、またそれを区民にどう伝えていくのがいいか議論を深めてきた。その一環として、クリーンなエネルギーである天然ガスやSDGs、ユニバーサルデザイン等に関する啓発施設である「がすてなーに ガスの科学館」に赴き、研修会を行った。

研修会では、以下のことを学んだ。

- ・天然ガスが産出されてから自宅に届くまでの過程

地中深くから採掘した天然ガスを液体になるまで -162°C まで冷却され液化天然ガス(LNG)となり、体積を大幅に縮小させてLNGタンカーで輸送される。日本に到着したLNGは備蓄基地(神奈川県横浜市根岸、千葉県袖ヶ浦市など)に貯蔵される。海水との温度差を利用して再び気体に戻して、火災防止のためにおいを付けた上で各家庭に運ばれる過程を学んだ。

- ・ガス管の耐震性について

現在地中を通っているガス管はポリエチレン製に入れ替えが進んでいる。ポリエチレン管は柔軟性が高く、地震発生時にも伸びることはあっても切れにくく、災害時でも安全性が高いことを学んだ。

- ・石炭、石油より環境性能が高いクリーンなエネルギーであること

天然ガスは石炭、石油と比して温室効果ガス排出量が少ない。具体的には、二酸化炭素は石炭を10割とした場合、石油が約8割、天然ガスは約6割に止まる。また、石炭、石油と違い、硫黄酸化物が全く発生しないことなどを学んだ。

- ・食品の運搬（フードマイレージ）について

食材が農園等から私たちの食卓に届けられるまでに輸送で生じる温室効果ガスの排出量をフードマイレージと呼び、それが具体的な料理でどれくらいになるかを学ぶコーナーを通じ、普段何気なく食べている料理と温室効果ガスの関連性について考えるきっかけとなった。

- ・SDG s について

日々の取組がSDG sの17の目標の中でどの目標を達成することにつながるかについて、パネルゲームを通じて学んだ。

【その他委員の感想】

・ガスの紹介だけでなくSDG sやユニバーサルなども啓発されていて素晴らしい。また、歴史ギャラリーでは貴重なガス器具が展示されていて、興味深く見させていただいた。実際に使用されていたポチエチレン管も見ることができて良かった。

・LNG について再認識した。化石燃料の中で石炭、石油に比べてクリーンなエネルギーだということが改めてわかった。主にオーストラリア、インドネシア等から輸入しているということであったが、輸送コストの上昇や戦争などのリスクが気になりである。SDG s コーナーではこどもが親と一緒に自然に学んでいるのを見て良いと思った。また、最後にクイズホールにてクイズに挑戦したが、難しかった。

・子連れの人が開館前から何組か並んでいた。五感で感じつつ学ぶという意味でもいい施設だと思う。

・どのコーナーも興味深く、素晴らしいと思った。

(2) 環境フェア

ア 令和3年度

すみだ環境共創区民会議の活動紹介のほか、区が令和3年10月に「すみだゼロカーボンシティ2050宣言」を表明したことを受け、「地球温暖化と『カーボンニュートラルについて』」をテーマに、世界と日本の温暖化の現状や我々区民の取る行動の具体例の紹介や、SDGsをPRするパネル展示を行った。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面形式での出展は全面中止)

(ア) 日時

令和3年10月13日から17日

(イ) 場所

区役所1階アトリウム



令和3年度の展示物

イ 令和4年度

令和4年度は、会議の議論のテーマが気候変動であることと、前年「すみだゼロカーボンシティ2050宣言」を区が表明したことを踏まえ、「2050ゼロカーボンシティを目指して～地球にやさしい生活スタイルのすすめ～」をテーマに出展を行った。内容としては、地球温暖化等の現状説明、区の環境区宣言・ゼロカーボンシティ宣言の紹介、ゼロカーボンに向けて緩和策と適応策の具体策について資料を作成し、パネル展示を行った。また、来場者との双方向の意見交換の場とするため、来場者がゼロカーボンに対し、どのように取り組んでいきたいかパネルに付箋を貼る形で意見を広く意見を募った。併せて、タブレットを使用し、来場者に環境保全課で作成した環境学習ツールを体験してもらおう場を設けた。2日間で計105名の来場者がブースを訪れた。

(ア) 日時

令和4年6月25日及び26日

(イ) 場所

すみだリバーサイドホール イベントホール



当日の様子

(ウ) 参加した委員の感想

- ・環境フェアの来場者で若い世代が少ないと感じた。もう少し若い人に向けてアピールするべき。
- ・環境フェアには若い人に来てほしい。お年寄り、子どもが多かった。若い人向けの周知方法を工夫していくべき。

(エ) 来場者の省エネ活動調査結果

(a) 節電関係

- ・節電（2件）
- ・無駄な電気は使わない、こまめに消す（7件）
- ・クーラーを節約して扇風機を付ける（2件）
- ・冷蔵庫を開けっぱなしにしない
- ・洗濯機の部屋干しモードは控えて電力カット 太陽にたよる！！

(b) ごみ・3R関係

- ・ゴミをふやさない、不必要なものはかわない、リサイクル・リユースして資源を有効活用する、
- ・リサイクル活動に協力している
- ・水筒を持ち歩くようになった！！
- ・ごみの分別の徹底（5件）
- ・古着をよく着るようになっている
- ・ストロー・箸はもらわない
- ・見つけたゴミはひろう
- ・コンポストして生ごみを出さない
- ・お肉を食べる量をへらす
- ・マイボトル・エコバック使用（4件）
- ・買った食材は使い切る
- ・食べ物をのこさない（3件）
- ・ゴミ拾いをする
- ・野菜はまるごと、皮ごと料理して、ごみを出さないようにする

(c) 節水関係

- ・節水
- ・水を出しっぱなしにしない
- ・風呂水をためないでエコシャワーにしている
- ・お風呂の水の量を減らす
- ・風呂の水をトイレに流す
- ・水道の水を流し放しにしない
- ・お風呂の残り湯で打ち水
- ・米のとぎ汁を植物にかけてあげる

(d) 緑化関係

- ・すみだの公園の木を切らない！！
- ・緑をふやす ガーデニング活動中

(e) その他

- ・車よりも自転車をメインで使用している
- ・家の電力を再生可能エネルギーの電力会社に変えた

4 活動のまとめ

ここでは、今期2年間（令和3年度～令和4年度）の活動のまとめとして、感想や来期に向けての意気込み等、各委員から投稿いただいた内容を掲載しています。

コロナ禍も3年が経過しました。世間ではマスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンスをはじめリモートワークもすっかり定着し、今期の区民会議でも前期に引き続き1時間の時短開催、リモート会議や書面開催も余儀なくされました。こうした状況下、昨年にはロシアのウクライナ侵攻をはじめ多くの事案が発生し気候変動は脇に追いやられた感があります。それでも、現実には世界各地で深刻な自然災害が数多く発生しています。気候変動は喫緊の課題なのです。

ただ、そのようにコロナ禍で多くの深刻な被害が発生した一方で経済活動の抑制により二酸化炭素の排出が減少したことも事実です。

墨田区で2021年10月にゼロカーボンシティ2050宣言を発出しました。それを受けて区民会議でも目標達成に向けていかにして区民に行動変容を促すか検討を重ねてきました。区民に現状を認識してもらい、緩和策・適応策を区民に取り組んでもらうことが課題です。

毎月5日の環境の日とグリーンすみだはそのための基本ツールです。

環境会議委員の間でも今期の活動を通じ、その重要性は共有できたと思います。

今までの実施内容も参考に環境の日に何をするか、グリーンすみだのコンテンツと普及方法の検討、いずれも区民を巻き込むことが重要です。

会議でもレシピコンテストの実施等いくつかのアイデアが出ました。

次期には是非これらのアイデアを区民会議が主体となり具体化する。そして2050年に向けて確実にゼロカーボンシティへのステップを進めていきたいと思えます。

すみだ環境共創区民会議 会長 宇田川 明

今期は、一言で表すと、大きな変化の2年間であったように思う。まずは、やはり新型コロナの影響が非常に大きい。1年目当初はなかなか会議を開催することができず、中止や書面開催が続いた。環境フェアも小規模になったし、フィールドワークなどもできなかった。そのような中、期の途中から副会長の職を引き受けることになったが、2年目に役割が変更になったこともあり、区の環境対策の推進に資する、活発で効果的な協議の場とするためにどうすべきか、非常に苦慮した。

一方、良い変化もあり、その一つとしては、オンライン開催が実現したことである。環境対策は様々な個人、団体に関わることであり、働く世代も積極的に関わっていくことが重要であるが、こうした会議に参加することはなかなかハードルが高い。オンラインで参加できることは、そのハードルを少し引き下げると思う。

もう一つ大きな良い変化としては、墨田区が、私もかねてより提言していたゼロカーボンシティ宣言を表明されたことである。2年目には、その実現に向けた具体策について臨時会議も開催するなど、的を絞った、より活発な議論ができたと思う。様々な環境問題やエネルギー問題等にも関わることであり、とても難しい課題ではあるが、ゼロカーボンシティの実現に向けて、区全体としてしっかりと目標を認識したうえで、1つ1つ具体策を考え、実行を積み重ねていくことが必要である。そのためには、広報力も重要であるので、環境共創区民会議として、区民や区の団体・事業者と共創していけるような普及啓発の施策についても議論した。来期はそうした施策を実行するために、さらに議論を深めていけたらと考えている。

すみだ環境共創区民会議 副会長 森下 香洋子

前期、前任者から引き継ぎ「すみだ環境共創区民会議」に参加させていただきました。まだまだ新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けながらも、会議も参集とWEBの「ハイブリッド形式」へ進化したり、感染対策に十分配慮しながら「環境フェア」も開催されたり、少しずつ様々な活動も取り戻して来られたのだと思います。

この間、「すみだゼロカーボンシティ 2050 宣言」が表明され、すみだ環境共創区民会議内でも気候変動への適応・緩和について議論しましたし、継続した学びもありました。また、区民の方々への発信についても何度も話し合いがされ、みんなで墨田区を良くして行こうという心意気に感銘を受けました。

今後も区と区民の皆さまと一丸となって取り組みを続け、地域企業として少しでも貢献できるよう、精一杯尽力させていただきたいと思います。

石川 香

2023年4月より東京ガスネットワークとして社名が変更となり、同時に担当も代わり、「すみだ環境共創区民会議」の会議に参加させていただくことになりました。

今年度は、ゼロカーボンシティに向けたロードマップ策定に向けての話し合いをたくさん行ってまいりました。会議に参加するたび、参加者のみなさまの「墨田区愛」と「環境に対する熱い思いや考え」がしっかり伝わり、私自身、参加するたび反省しています。会議の中では、個々の行動変容がいかに大事かということ、区民の皆さんにどのように伝え、取り組んでいくか、が課題でした。私自身も小さなことから行動に移していこうと思います。

また、この時期ではありますが、会議メンバーのみなさまに研修会として、ガスの科学館「がすてなーに」を見学させていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

東京ガスグループ全体で、脱炭素にむけて、より一層努力してまいります。そして、今後もすみだ環境共創区民会議を通じて、墨田区の環境政策の一助となれるよう務めさせていただきます。

小林 紀子

私たちは、地球環境に負担をかけてしまっています。温暖化などの課題の解決のために、具体的な行動が求められています。

これまで、新型コロナウイルスに振り回されて、活動が制限され、思うように前に進むことが難しかったです。

それでも、SDGsやカーボンニュートラルに関する研修を受けて、実際に生活に取り入れる事が出来ました。例えば、再生野菜、緑化推進、水の有効活用、光熱水費の節約、ゴミの削減、リサイクルなど。

これからは、若い人にすみだ環境共創区民会議に興味を惹くようなアピールの方法を考えていきたいと思います。

橋本 玲子

先ずは共創区民会議が無事今年度も終了できそうなので安心しております。会議に参加された皆様に感謝です。

初めは緑の基本計画の分厚い資料をいただいたときはどこまで、何ができるか漠然とした不安のみでした。

新型コロナウイルス感染拡大によって当たり前の日常が当たり前でなくなり私たちの生活がこんなにも変化したのは一番の驚きでありちょうどこの会議が始まった時期と重なったので良くも悪くも考える要因が増えたように思います。

新型コロナも振り返ってみれば自然環境の変化が一因ではないでしょうか。

もっと自然に対し謙虚でないと大変だぞと天の声に警告されているような感じがしました。

世界中の共通課題である気候変動による災害、ウクライナ紛争による化石燃料とエネルギー問題など、2023年を迎えて一個でも解決につながる道が開けていけばよいなと思います。

SDGsということがさかんに言われるようになっていきます。墨田区の小さな共創会議からこれから環境に対するいろいろな発信ができたらと思います。

そのために多くの墨田区民にこの会議を知ってもらうのが来期の私の目標の一つです。

門倉 美雪

コロナの影響で、イベントや会議なども様々な制約を受けた今期でした。

しかし、SDGs という旗印をうけて、CO₂をはじめ、環境という問題について根源的な議論が深まったと感じました。

「雨水市民の会」では、今年度から「下町×雨・みどりプロジェクト」を推進しています。このプロジェクトでは、雨を活用し、みどりをはじめ自然とともに生活を楽しめる、すみだのまちにしていくために、モデル的な施設やまちなみを創っていかうとしています。

「雨」は、豊かな恵みをもたらすとともに、時として、災害という牙となります。近年は地球温暖化の影響で、異常気象として牙をむく「雨」が多くなっています。このプロジェクトをはじめ、「雨」を資源として活用するとともに、環境の改善や防災など、「雨」をとおして、皆で取り組める SDGs の推進に寄与していきたいと思っています。

個人的な環境問題としては、温暖化がそのまま進み、平均気温が 5 度上昇した時、すみだはどのようになっているのか危惧しています。現在より 5 度平均気温が高かった時代は 6000 年位前の縄文時代に当たりますが、当時、東京湾が大宮あたりまで進行していて、すみだは海の底だった時代です。孫が 40 代くらいになると、このような気象となる事が予想されていますが、孫たちもすみだのまちで楽しく生活できるよう、爺としては、今できることを考え、活動していこうと思っています。

佐原 滋元

2050年までにカーボンゼロ宣言を国が致しました。国民は何が出来るか又墨田区民がどの様に生活をするか、共創会議の中で議論をして来ました。ゴミの問題・食品ロス・雨水・省エネ等の問題を幅広く議論してきました。皆様の活発な意見を聴いて、参考になるお話を聞けたと感じます。

区民感覚で考えますと、区民の方たちは温暖化について理解していると感じております。今の生活の中で、出来る限り省エネに関することを実践していると思います。コマメにスイッチを切る・ゴミを出来るだけ減らし、生ごみは水を切る等をしていると感じています。

私の職業柄、省エネに理解し区民の方たちとお話出来る時などは、省エネについて説明致します。住宅・非住宅の新築・改築などでは、必ず開口部・外壁など断熱性能を有する施工に心がけて居ります。

2024年度から省エネ基準が変わり、太陽光発電の設置（東京都）の義務化が施行されます。これからは、経済的にも負担がかかるかと思えます。国は2050年までにカーボンゼロを目指しております。

環境保全課の補助金・東京ゼロ住宅等も活用し、省エネを何とか推進していきたいと思っております。古い材も利活用することにより、二酸化炭素の排出を抑えることが出来、出来る限り再生材をと心がけております。

最近近所の高齢者の方が（一人で暮らして居る）便所が詰まった・台所の水が流れない・電気の交換など相談しに参ります。生活の中で多少不安が有る、困っているなど、お持ちの方が有ると感じます。これも環境問題の中の、不安だと思えます。少しでも取り除いて上げる様にしております。

今年は実践にて環境問題に取り組みたいと思っております。

笠貫 昇

美しい水辺のある緑豊かな「すみだ」そんな「すみだ」になってほしいと思います。墨田区の周囲は川に囲まれ水辺があります。もっと緑を増やし水辺を整地して行くと自然に人が集まってくることでしょう。

そしてこどもをのびのび遊ばせる場所や魅力あるカフェやスイーツも必要です。きっと若い家族連れが増えて活気あるきれいな街「すみだ」になります。

定期的な会議の中で皆さんとの意見交換は自分としてもっと深く考えねばならないといつも刺激を受けます。

ある日私はトングとビニール袋2枚持った若い男性とすれ違いました。彼はゴミを拾いながら WALKING をしているのです。何て素晴らしいことでしょう。私は思わず見とれてしまいました。環境フェアで「スポごみ」のイベントをやっていますが、フェアの時だけでなく日常的に実施できればと思います。区民の皆さんにも散歩や WALKING のときに実践してもらえるように広められたらいいのではないのでしょうか。

すみだ環境共創区民会議の一委員として住みよい街づくりのために問題意識を持ち活動に取り組んでまいります。

橋本 恵子

コロナ禍が未だにつづく今日です。

墨田区の人口が28万人になったと聞いた。とても嬉しい事である。それも出生届だったという事である。

環境を考える中で墨田区が一番に思うことは水害の事である。海拔0m地帯であるという事。防災という観点からは水害だけでなく地震、津波、台風、大雪、山崩れ、病原ウイルス等々日本列島災害が起きない年はない。加えてゴミ問題も深刻である。令和12年には墨田ゴミ焼却場も一変するのかもしれない。

日本の政治も安保関連3文書が発表された。国家防衛戦略。敵地発射基地に直接攻撃、原発政策大転換、原発再稼働目指す方針、次世代の原子力開発検討。ロシアによるウクライナ侵攻から1年悲惨な状況である。けしかけたり煽ったりする者がいるのではないかと疑いたくもなる。昔からの諺に「三方一両損」がある。お互い仕掛けた方も仕掛けられた方もとり仕切り役も三方が一両を損するという話であるが、要は皆が一両損して平和になるという話である。物騒な世の中になるような気がしてならない。

暑い処は暑い極暑、寒い処は極寒、雨降るところは多雨、降らない処は全く降らず。温暖化の社会現象の概念である。日本も炭鉱から石油への波は60年前だったと思う。今、墨田区は地球温暖化対策実行計画の数値目標を環境共創プランで掲げている。目標値は2030年(令和12年度)632千t-CO₂eqである。基準値は2000年(平成12年度)1,265千t-CO₂eq。しかし2018年(平成30年度)1,206千t-CO₂eqの実績でしかないのである。

ニューヨークでは二酸化炭素を取り出してコンクリートに混ぜて使用するカーボンリサイクルが実践。

今年も節分の時期がやって来ます。あなたは節分に何を投げますか？怒りですか？福を呼ぶ豆ですか？この社会の環境(状況)に的があったら思いっきりぶつけてみたら良い事がありそうな今日この頃です。

共創区民会議で意見を言い、共創区民会議から発信できるもの、啓発できるものを見出していけるよう頑張れたのか？2年間の反省である。

小木曾 清三

コロナ騒ぎで見えてなかったものが見えたり、日本を憂いて、72歳のこの歳で日本・世界の変化に怖いものを感じている。

私は日本のテレビ番組はほとんど見る事はない。色々な意味で、「サイレント・インベーション？」を感じているから。

「脱炭素問題」で会議をやってきて、懐疑的な発言をしてきていたのも、SNS等を見たり、講演会、多数の意見を聞く事と、自身の体験を重ね合わせて、物事を考えるようにしているからです。勿論ワクチンは拒否。

20数年前に実家を建て直す時、太陽光・省エネ・バリアフリーも検討しました。結果、ソーラパネルは問題が出てきてやらなくて正しかったと自負している。

【雨水利用は良かったです】。

大きな意味で、人権問題の絡みが有ったり、利権が絡んだり問題山積。一般報道はされない？しないのか疑問を感じている。

環境問題に限らず、問題の多さを、歳だからという理由で目を背けることなく、今後関わっていくのかなと自問自答。

墨田を「終の棲家」として「生活していこう」との思いで!!

佐野 まさ子

近年、大規模な森林火災、洪水、干ばつなど、気候変動による自然災害が頻発しています。気候変動を引き起こしている地球温暖化がこのまま進むと、21世紀末に世界の平均気温が産業革命前から2℃以上上昇することになり、人間だけでなく、地球上に暮らすあらゆる生き物に甚大な被害をもたらす、生態系が乱れ、生物多様性も一部失われる、といわれています。

地球温暖化は、大気中に排出された二酸化炭素など温室効果ガスの濃度が上昇したことによるものであり、今から27年後の2050年ごろまでに温室効果ガスの排出量を実質0にするカーボンニュートラル（大気中に排出される温室効果ガスの量と森林などの光合成により吸収される量を均衡させることを意味し、これが実現すると、大気中に新たに蓄積される人為的な発生源による温室効果ガスがなくなる効果がある）によって、21世紀末の世界の平均気温を2℃以下に抑えることができます。このため、世界の国がカーボンニュートラルの実現に政策転換し、我が国政府、また墨田区も2050年までにカーボンニュートラルの実現を表明しています。

このような状況下、区民会議は、前期、「第二次すみだ環境の共創プラン」の中間改定、「第二次墨田区緑の基本計画」の策定の議論に参画した。共創プランの改定の議論では、墨田区が「SDGs未来都市」に選定されたこと、またカーボンニュートラルの実現を表明していることから、区民会議としても、持続可能な開発目標（SDGs）の浸透、またカーボンニュートラルの実現に向けての必要な施策や対策など、また区一体となって具体的行動を推進するため、区民、事業者、行政それぞれが果たすべき役割なども再検討して、共創プランに盛り込んだ。

後期、区民会議は、地球温暖化の取組として、気候変動対策における「緩和」や「適応」の具体的な対策、それらを区民に周知し、実践するための情報発信の方法などを議論した。今後、区は、区民会議の意見のほか、地球温暖化の影響を受けやすい海面水位（満潮時）以下の0m地帯が多くあり、カーボンニュートラルが実現しても海水温や海面水位の上昇を直ちに抑えることができないことから、地域特性も考慮し、長期的な観点に立った「適応」の施策などを検討することになると思います。

区民会議の活動全般についての感想ですが、区民会議は、区が策定する施策に反映する意見の取りまとめ、施策の進捗状況の評価などが中心で、カーボンニュートラルの実現の重要性、そのための省エネ行動の実践を区民や事業者へ情報を発信する機会は、「環境フェア」だけでした。墨田区で排出される温室効果ガスの約6割は、民生部門(家庭、事業所)からのもので占められています。このため、カーボンニュートラルの実現のためには、区民一人ひとり、事業者が当事者意識をもって節電や節水など省エネ行動などを実践していくことが必要です。このため、区民会議は、区報などの手段を活用して、定期的に、適切な情報を区民や事業者へ発信するなど、共創プランの目標に向けての実践活動をもっと多くすることが必要であると考えます。

最後に、地球環境が危機的な状況に向かっており、「水と緑に恵まれたすみだ」を未来の子供に引継ぐためには、時間が限られています。

我々も、区民の皆さん、事業者の皆さんと一緒にカーボンニュートラルの実現に向けて頑張りましょう。

公募委員として、委員の皆さん、環境保全課の皆さんに助けられて楽しく活動することができました。ありがとうございました。

すみだ環境共創区民会議 副会長 土屋 爲由

この2年もコロナに翻弄され、活動が制限されてしまったのでは、というのが率直かつ重い感想である。幸いにも戸外でのフィールドワーク等の活動はあまり制限されなく、見聞を広めるには良い体験にもなるので、さらに実行してもらいたい。

以下、提案を含め感想を述べたい。

1. 会議開催の形式について

まず毎月1回で60分という限られた時間内で議事を上手く進めて頂いた会長、事務局に感謝したい。またリモート会議が一般化する中でWeb会議システムとしてのZoom利用が普及し、本会議でも利用してきたが、安定した接続環境は大きなメリットである半面、会場出席者個々人と画面共有ができず、誰が発言しているのか分かりにくい、接続前にメンバーとメッセージやチャットのやり取りを行うことができないので時間の有効活用ができにくい、さらには各種サービスとのデータ連携ができない等のデメリットが気になっている。

未だにコロナの終息が見えない以上、リモートによるWeb会議は継続するものと予想し、事務局において他の会議、例えばMicrosoft TeamsやSkype Meet Nowなどのシステムを調査、比較検討していただき、より良き会議システムを提案してもらいたい。

なお、上記毎月1回で60分という制限は、再検討できないか。昨年はこのために分科会を開催して議事をこなししたが、夫々の都合もあり60分を延長するのが、現実的と考えるか、いかがなものだろうか？

2. 基本目標、特に温室効果ガスの削減について

「第二次すみだ環境の共創プランの概要 基本目標1」では、「脱炭素社会の実現に向けたまちづくりが進み、あらゆる人が行動するまち 【墨田区地球温暖化対策

実行計画（区域施策編）】 2030 年度までに 2000 年度比で 区域におけるエネルギー消費量を 50%削減する 区域における温室効果ガス排出量を 50%削減する」としているが、現時点での温室効果ガスの排出量は僅かな減に留まっており、会議議論を通じての個人的な感想では目標達成には厳しいものを感じている。それは省エネ意識が向上していない、再生可能エネルギーに切り替えられない、家庭での脱炭素化が進んでいない等の理由とされている。確かにご近所や他ボランティア仲間では、これらの用語は知っているが、残念ながら「ゼロカーボンシティ」は浸透していない印象である。省エネを進めたり、クリーンエネルギー利用を推進することに理解はあっても、各家庭で暖房温度を調整したり、テレビの視聴時間を削減したりするのは夫々の事情もあり難しいだろう。ましてやそのために工事を行ったり、設備を整えたりするのは何らかの補助がないと困難である。しかし、ゼロカーボンシティを目指すことは、マクロ的には地球温暖化防止に通じることでもあり、孫子孫のためにも必ず実行しなければならない。

3. その第一歩としての広報

では、これらの向上していない、進んでいない等の課題をどうするか。このことについてこれまでの議論の中で、一つの方法として広報の積極的な利用を挙げた。ここで言う広報とは、区民に対して情報発信する、その発信が区民や関係者にどのように受け入れられたかを把握すること、その反応やフィードバックを会議に還元して活動に役立てる、また区長や上部会議体に課題を伝えて変革を促す、等の対応が考えられる。特に第一段階としての区民に対する情報発信ということを考えてみたい。

①課担当と本会議メンバーで広報担当を設けてはどうか。忙しくなるが、本会議時間以外でも Web 会議等での活動ができる。

②本会議のホームページを設け、会議議事録以外の活動、例えばフィールドワーク

の記録、区民から質疑応答等も載せる。

③ SNS での発信をさらに進める。

④ ホームページと SNS 上で共通のロゴマークを作り、アップする。視覚的に活動イメージを覚えてもらう効果を期待する。

⑤ ポスター、チラシの作成、配布。予算を生ずるというデメリットがあるが、各家庭への個別配布や町会掲示板で見てもらえるという効果が期待できる。

4. やはり緑を増やしたい

この会議に参加した目的は、何といたっても区の環境保全や感性の育くみ等の手段として緑を増やしたいという思いがある。この緑を増やす、とは個人的にはみどり率や植樹数を上げる、自宅園芸栽培を増やすこと等で、これらの活動によりさらなるおいのある住みやすい墨田区を目指したい。

以上、思いつくままに書き記したが今後の議論の参考になればと思う。

碓氷 喜信

環境課題の解決には、

- ①現状を知る
- ②自分ごととして感じる
- ③実践する
- ④持続する

ことが大切だと思う。

すみだ環境フェア 2022 は、環境課題を知る良いキッカケだったと思う。

スポ GOMI やエコワークショップをとおして環境課題を自分ごととして意識するようになった人もいたと思う。

スポ GOMI では、ゴミ拾いを実践して、あらためてゴミ問題を身近に感じ、実践することの重要性に気づいた参加者も多かったのでは。

他方、すみだ環境フェアには、いろいろ魅力的なワークショップがあり、複数のワークショップに参加したくても、時間に制限があり、参加できずに残念な思いをした人も多かったのでは、と感じた。

そこで、すみだ環境フェアの講座・ワークショップの一部を分割し、年間を通して開催し、環境に配慮した生活を継続して意識するキッカケになればと思う。

すみだ環境フェアで高まった環境への意識を持続させるために、各回の環境フェアの目標と結果をいつでも確認できるようにするとともに、環境意識のレベルを保ち、次の行動につながるよう、呼びかけを工夫して行きたいと思う。

小林 茂美

環境共創委員の活動を通して、墨田区の良いところを知れたこと、そして自分の住むまちをよくしようと尽力されている方々と出会えたことで、住んで日の浅い私ですが、墨田区に越してきてよかったと思えました。

委員の活動では、環境フェアに参加し、参加者の方や他出展者の方と交流できたことが特に印象に残っています。すみよいまちにすること、持続可能なまちづくりを行うことは、一朝一夕には不可能ですが、一人一人が繋がり、一緒に考え、行動に繋げることが、地道ですが何よりも確実ではないかと思えます。そのようなことを、共創委員の活動を通して学びました。今後も微力ながら、墨田区へ貢献できるよう活動ができればと思っております。

木股 里穂

●今季振り返り

- ・区民は環境問題に関心があると実感できた

…2022年6月のすみだ環境フェアでの区民会議のブースで、想像以上に幅広い世代の方に出展をお楽しみいただきました。

付箋貼り付けパネルの出展では、自発的に環境対策、節約を実施している区民も多いと実感しました。

- ・区民への周知・促進活動が課題と感じた

…11月・12月の会議でも議題になった、環境保全課発行の「グリーンすみだ」、環境の日（毎月5日）など、我々委員も含め認知度が低かったと感じました。

- ・区民会議でも、区民と交流する機会があるとよいと感じた

…関心が薄い区民へのPRと、区民の実態を我々が知る意味で

- 定期的に不特定多数の区民にアンケートを取る（ポスティング）

- 会議も時々区民参加型にしてみる

など、さらに交流できる機会があるとよいと感じました。

Ex：武蔵野市の市民会議など

https://www.city.musashino.lg.jp/gomi_kankyo/shoene_eco/oshirase/kikoshiminkaigi/index.html

●PRについて、個人的所感

- ・毎月5日 環境の日のPRについて

…委員でもご意見あったように、商店街や大型施設（ソラマチ、オリナス等）と協力し環境の日にイベント開催するのはよいと思いました。（区民に身近な場所での告知）

その他、環境の日に

- 環境問題の提起をポスターで告知（世界の気温上昇が4℃を超えると起こる問題、墨田区への影響）

- 各地区の避難所に立札などをその日1日立てて避難所を再確認してもらう
- ゴミ拾いや環境についてのディスカッション・座談会の開催
- 特定月に使用電力やガス量など、少ない人を表彰するなど競技形式イベント

もよいのでは、と思いました。

● 墨田区の取り組み・補助金のPRについて

…費用をかけずに告知する方法としては、SNSが効果的と感じます。

(ネット広告・ポスティングなどどうしても費用が必要)

例えば、Twitterで 墨田区 環境保全課 の名前のアカウント、アイコンを地球くんにして区の環境施策や各種補助金(環境)を1日1つつぶやき周知する補助金や制度への質問をTwitterのDMでも受け付ける、等

● その他、所感

● 住宅や家電製品などについて、環境にやさしい製品の見分け方などを「グリーンすみだ」にて掲載する

…家電量販店や住宅販売店などと協力し、エコな製品の見分け方などを掲載するなど良いと思いました(消費電力〇〇Wまでの暖房はエアコンより少なく省エネ、住宅を見る際はここを見るとよい、など)

松村 拓也

すみだ環境共創区民会議 委員名簿
(令和4年度)

	役職	氏名	所属等	選出区分
1	会長	宇田川 明	会社員	環境保全活動に 実績のある 区民及び事業者
2	副会長	森下 香洋子	会社員	
3		石川 香	東京電力パワーグリッド株式会社 江東支社	
4		小林 紀子	東京ガスネットワーク株式会社 東京東支店	
5		橋本 玲子	なでしこ	環境団体の構成員
6		門倉 美雪	緑と花のサポーター	
7		佐原 滋元	雨水市民の会	
8		笠貫 昇	すみだ景観フォーラム	
9		橋本 恵子	エコライフサポーター	
10		小木曾 清三	公募区民	公募による区民 及び区長が必要と認める者
11		佐野 まさ子	公募区民	
12	副会長	土屋 爲由	公募区民	
13		碓氷 喜信	公募区民	
14		小林 茂美	公募区民	
15		木股 里穂	公募区民	
16		松村 拓也	公募区民	

すみだ環境共創区民会議

令和3年度・令和4年度 活動報告書

令和5年3月

発行 すみだ環境共創区民会議
事務局 墨田区都市整備部環境担当環境保全課